

東アジア地域交流促進協議会

6月28日、役場で東アジア地域交流促進協議会（会長・松岡市郎町長）の第5回アドバイザー会議を開きました。

日本語留学生、研修生の受け入れを中心に交流を進めている東アジア地域の韓国、台湾、中国、タイ、ウズベキスタン5カ国・地域から11人が出席しました（順不同）。



韓国人アドバイザー、ハ・スヨンさんは、「ブログで『死ぬ前に行くべき場所』として北海道10カ所の中で天人峽が紹介された。韓国で東川町が紹介したのは初めて。旭岳に行つて紹介したら『行ききたい』、去年キトウシ高原ホテルに泊まつて紹介したら、『泊まりたい』という反応も出てきた」などと韓国内の反応が徐々に上向していることを報告しました。

台湾の富田恭敏さんは「日本語留学を募集しているが、応募者数が増えている。学生の質も上がつていて、短期研修の遊学の学生が長期の留学を目指

乳幼児保育のこまくと保育園開園

7月1日、東町1丁目に小規模保育園「東川こまくと保育園（広瀬真弓園長）」が誕生しました。松岡市町長、広瀬園長ら関係者がテープカットで開園を祝いました。



昨年8月に道認可を受けたあさひかわ福祉生活協同組合（旭川、萩原信宏代表理事）の初の小規模保育園。0歳から2歳児までの乳幼児保育（定員9人）と一時保育、休日預かり保育（一日当たり定員4人）に対応します。常駐の保育士は4人。広瀬園長は、

道北勤労者医療協会（道北勤医協）一条通病院（旭川）の院内保育園、たんぼぼ共同保育園で開設時から保育士として務めた32年のベテラン。開園式にはたんぼぼ保育園の園児5人もお祝いに遊びに来てくれました。保育園は町幼児センターにすぐ近い町営住宅の建物を利用してあります。この日は開園を知つて子育て中のお母さんが子供と一緒に次々と来園し、「これなら安心して預けられそう」などと見学していました。今後幼児センターと互いに連携を図ることとしています。

平均年齢79歳の野球チームが交流大会

7月7日、東川ゆめ公園球場で第1回全道喜寿軟式野球大会が開かれました。

北海道還暦軟式野球連盟（大会長・深川いづべやス旭川大蔵業立代表）が主催しました。札幌、旭川、岩見小沢、深川、東川から道内5チームが出場しました。最高年齢は札幌・滝川混成

チームから出場した86歳、平均年齢は79歳。かつてのチームメイトやライバルと旧交を温め、トーナメント戦を行つて対戦。地元東川町からは庄内孝治さん（80）が旭川・深川いづべやズチームのメンバーとして出場しました。大会は岩見沢球友クラブ（高橋昭男



代表 12人が初優勝、いづべやズは残念ながら1回戦敗退でした。同連盟では今後も年1回の交流大会をゆめ公園球場で開きたい、と話しています。

ベトナムの高校が初の日本語体験スタディーツアー

ベトナム・ホーチミン市のトゥ・ドック高校から15歳から17歳の1、2年生と教師17人が6泊7日のスタディーツアーとして初来町しました。今回来町した生徒13人中、授業で日本語を学んだことがあるのは3人だけ。しかしホーチミン市では日本語教育熱が高まっているといい、昨年9月の新学期から新たに日本語教育がスタートしたそうです。

今回が初の試み。同行してきたゲン・ティ・ミン・ハオ副校長はじめ教員4人と生徒の印象が良かったようので来年以降、東川での日本語研修生の派遣を積極的に検討することになりました。同校で海外に生徒を送り出したのは、



ロープを使う木登り、ツリーイングに挑戦（キトウシ森林公園）

まいましたが、それさえも幻想的で新鮮初めての北海道の自然を堪能し、大型ショッピングセンターで買い物体験もして興奮の連続だったよう。

平和の誓い、中国人殉難烈士慰霊祭

7月7日、中国人強制連行事件殉難烈士慰霊碑管理委員会（代表委員・外山弘美東和土地改良区理事長）が東14号共同墓地で中国人強制連行事件殉難烈士慰霊祭を行いました。



東和土地改良区、旭川市、東川町、旭川日中友好協会、旭川華僑協会、留学中の中国人留学生など関係者約80人が参列しました。外山代表委員は、先の第二次世界大戦（太平洋戦争）が引き起こした日中の不幸な戦争の歴史を振り返り「敗戦の前年、4万千人が強制連行によって

日本に送られ、当地でも農業用遊水池の建設のために338人が強制連行で働かされ88人の犠牲者を出した。負傷者48人、病人221人に達した。遊水池はその後私たちが昔農と地域発展に貢献しました。その事実を日中友好の礎になるべく永く伝えていきたい」と追悼しました。松岡市町長は「本町の農業発展の基礎となった遊水池は、今は多くの人々の憩いと交流の場になっています。今改めて日中の永遠の友好、人類の恒久平和を願います」と祈念しました。

慰霊追悼を込めて平和の誓い

7月2日、町社会福祉協議会（桑原良一会長）主催の東川町慰霊追悼式が平和と開拓の碑で開かれました。開拓の碑は、戦没者、開拓労働者を慰霊しており、遺族会、社会福祉団体、町内の自治振興会代表など各界から約120人が出席し



て先人の労苦をしのびました。松岡市町長は「輝かしい122年の歴史を築いた先人をしのび、462柱に2世紀のさらなる発展を誓います」と追悼、献花しました。音楽行進は、町内の

幼児センター、各小、中学校、高校から7チームの園児、児童、生徒延べ約230人がマーチング演奏と太鼓演奏を披露。役場から基線道路（道道旭川旭岳温泉線）などを經由する約1・5キロを行進しました。協賛として、町農村環境改善センター、文化ギャラリーなど4会場で文化芸術発表・展示、慰霊祭記念剣道大会なども開きました。